

微妙音

発行所
無量山 真宗寺

☎ 862-0911

熊本市東区健軍4丁目17-45

☎ (096) 368-3759

☎ (096) 368-3780

E-mail:shinshuji@triton.ocn.ne.jp

郵便振替:01960-6-52645

加入者名:真宗寺事務局



埋立地の水俣エコパーク

秋・彼岸会法要

9月22日(火)～24日(木)

勤行・午後1時30分から
法話・午後4時まで

講師・譽田 和人師

(元真宗大谷派宗務役員)

受付、お茶出し当番・日程

22日(火) 西無国

23日(水) 新外、三郎

24日(木) 上無国

法話の休憩時間(15時頃)に、右記地区の方々用意された

「盛出し」(お弁当)やお茶菓子を、参詣くださった方に召し上

がっていただきます。

三日間の期間中で、お時間のある時にいつでもお参り下さい。

納骨堂追弔会法要

11月7日(土)・8日(日)

勤行 午後1時30分から
法話 午後3時30分まで

講師・溝邊 伸師

(久留米・蓮明寺住職)

真宗寺の納骨堂に加入しておられる方の、一年に一度の追弔法要になります。亡くなっていかれた身近な方との関係を通して、仏縁に出遇っていく大切な行事です。亡き人を通して、一人ひとりが真宗念仏の教えを聞かせていただく縁になればと思います。

みなさま是非ご参加くださいますようお願い致します。

なお、納骨堂に加入しておられない方もご参加いただけます。

禅ボイス開講中♪

ストレッチ&発声・読経体験

講師 新生剛士さん

ボイストレーニング講師&タマリカンフラットボールコーチ

日時 9月27日(日)・10月18日(日)
15:00～17:00
会場 真宗寺本堂
会費 定員 20名



月に一度程度開講しています。ご興味がある方は、お寺までご連絡下さい。

みみようおん

はたまたその海の割るときにあらわれて地の低きところをほう虫に逢えるなりこの虫の死にざまに添わんとするときようやくにしてわれもまた人間のいちいなりしや

石牟礼道子『苦海浄土』第三部 天の魚 より

今年、水俣病公式確認から70年の時を迎えた。水俣病になられた方、そのご家族、そしてそういった場所生きておられる方々の苦しみや悲しみというものを、祈りがある。

仏さまは「十方衆生よ」と私たちに呼び掛け願っておられる。ただ、古い經典では「十方衆生」という言葉が「諸天・人民・蜚蜚・蠕動の類」となっているものがある。蜚蜚とは空中を飛びまわる小さな虫のことであり、蠕動とは地面を這いまわる小さな虫のことである。そういった生き物すべてのいのちに仏さまの願いが掛けられているのだ。その仏さまは一体どこにいらっしゃるのか。それは、私たちの深い悲しみ苦しみ、罪業を抱えた身のところにおられるのだと思う。

そういう私たちの罪業を、海や大地が引き受けてくださっている。そういった海や大地に仏さまの願いを感じる。それが私はミナマタを考えていくことなのだと思う。

ヘドロを埋め立ててきれいにしたら水俣病の問題が解決したのではなく、埋め立てられた底に毒がある。その毒に侵された海を感じるところに、人間のいのちの回復があるのではないだろうか。

(佐藤 薫人)

いのちの祈り

その9

「群萌の会」講義録

宗正元師講述

聞思の生活

「五正行」ということがあります。聞思して、仏さまを拜んで、仏さまの願いにかなう生活、仏さまを讃嘆供養して

祈りする。どうか幸せになり
ますように、いいご縁があり
ますようにとかね。仏さまが
祈り続け、誓い続けておられ
ることなんかには頭が下がり
ない。

しもそうとは限らない。ここがなかなか越えられない。本當に聞思が徹底しないと礼拝することは無い。仏さまを拝むことが我々には中々できないんです。中々じゃなく、絶対できない。

頭を下げるだけ。頭が下がるんじゃないくて、頭を下げるだけ。頭を下げてどうするかというと、自分の願いをお

くらいまでは出来るけどもね
聞思は徹底しなければいけ
ない。徹底しなければ、頭が下
がるなんてことはない。全生
活が聞くということに極まる
そういうことに徹底しておつ
て、初めて頭が下がる。必ず
やり遂げて下さるということ
に頭が下がる。頭が下がらな
いということは、どんな人も
尊ぶということができない。

そういうことに繋がるんですよ。

どのような生き方、どのような身を抱えて、どのような境遇を抱えている人であろうと、かけがえのない人として尊び敬う。そういう生活を開いてくるのが、頭が下がる生活ですよ。

頭を下げるというのは、まだ頭が上がつているんですよ。自分の頭で人を見ている。自分の頭で「あの人は偉い人だ」

衰れな人間だ」とかになる。その人の気持ちは別として、どのような人をも生かしているいのちがある。そのことに頭が下がる。その人の性格とか、そういうことに頭が下がるんじゃない。その人を生かしておる、そのいのちに頭が下がる。

それが南無阿弥陀仏の魂です。法蔵菩薩の魂です。法蔵

の願心は「至心」、「信樂」、「欲生」といいます。言葉で言いあらわしてありますが、行願です。ただ願があるのではなくて、願を行じていく。願は目的を達成することじゃない。本願を限りなく行じていく行です。その法蔵菩薩の行を礼拜という言葉で言いあらわされています。

いのちに出会う

一番最初に頭が下がる。仏さまに五体投地する。それが法蔵魂、法蔵の願です。だから法蔵菩薩という願心を回向して下さるといふのは、ただ願心だけじゃなくて、行も一緒に合わせてですよ。願心はただ願だけじゃない。願心を行じ続ける。その願を歩み続ける。だから親鸞聖人はそれを往相回向の心行と言われます。心行を回向してくださいと。

頭が下らん私どもに、頭

9月 1日 (火)	『歎異抄聴記』 輪読会	
9日 (水)	脳トレ健康体操	
17日 (木)	仏具磨き	午前10時
22日 (火)	秋・彼岸会法要	
24日 (木)	講師：譽田 和人 師	
28日 (月)	定例法座 『正信偈』に聞く	
10月 1日 (木)	『歎異抄聴記』 輪読会	
14日 (水)	脳トレ健康体操	
28日 (水)	定例法座 『正信偈』に聞く	
11月 1日 (日)	『歎異抄聴記』 輪読会	
7日 (土)	納骨堂追弔会法要	午後1時30分
8日 (日)	講師：溝邊 伸 師	
11日 (水)	脳トレ健康体操	
25日 (水)	脳トレ健康体操	
28日 (土)	定例法座 『正信偈』に聞く	
12月 1日 (火)	『歎異抄聴記』 輪読会	
9日 (水)	脳トレ健康体操	
23日 (水)	仏具磨き	午前10時
28日 (月)	定例法座 『正信偈』に聞く	
29日 (火)	餅つき	午前10時
31日 (木)	除夜の鐘	午後11時
1月 1日 (金)	修正会	午前7時30分

◆定例法座『正信偈』に聞く	⇒午後1時30分
◆脳トレ健康体操	⇒午後2時00分
◆『歎異抄聴記』輪読会	⇒午後2時00分

※各行事については、日程を変更する場合があります
ので事前にお問い合わせください。

 096-368-3759

✉shinshuji@triton.ocn.ne.jp

が下がる法蔵魂を手渡しにく
れていると。私どもが頭が下
がるようになるということは
法蔵と共に生活するという形
で初めて頭が下がる。頭が下
がるのは法蔵魂です。五体投
地する。だから、はからずも
たまわるものなんです。仏さ
まに頭が下がらない、本当に
人を尊べない、そういう私ど
もに、はからずも人を尊ぶ歩
みのはじまる。

法蔵魂の歩みを回向してい
ただく。南無阿弥陀仏の道と
いうのは、法蔵魂と共に生き
る道ですよ。法蔵魂が私ども
と共に生きて下さる。自分独
りで生きていくわけじゃない
私どものことを心配して念じ
て下さる。そういう法蔵魂が
共に生きて下さる。法蔵魂に
出遇う。

親鸞聖人は『教行信証』の
総序に「遇いがたくして、い
ま遇うことを得たり」という
言葉で言いあらわしておられ
ます。遇いがたいのちに出
遇うと。遇いがたい法蔵魂に
出遇うと。

そういうことが「三遣^{さんけん}」で
す。「三遣」の第三番目が、こ
の世を悪しき世として厭う。
これが「三遣」の第三番目に
出ておる。厭うつていうのは
嫌うつて意味じゃないですよ
こんな世の中から離れたたい
いうことではない。悪しき世
の中心は、私に固執すること
なんです。単に道徳的な意味
じゃないです。

悪しき世つていうのは、ど
こまで行っても私に執着する
私を越えられない。私を主体
のように思う。これが悪しき
世です。悪しき身ということ
です。身つていう言葉で言い
あらわすのは感覚とか、考え

です。見たたり聞いたり考えた
り、あるいはこうしよう、あ
あしようと思ひ立つ意思、意
欲がいつも私を中心にしてお
る。私の心、私の願ひを満た
そうとする。それを悪しき身
という。それを厭う。

つまり厭うつていうのは、
痛む心です。自分では厭え
ない。発遣を通して厭わせる
つまり厭わせるつていうのは
大悲して下さることです。そ
ういう心に触れて、この身を
厭う。この世を大悲して下さ
る。三番目に出てくる心は、
弥陀の心を言いあらわしてい
る。

一番目は釈尊に代表される
二番目は諸仏の仏意を代表し
ている。三番目は仏願を言い
あらわしてある。つまりこの
世に執着しておるそういう心
を痛む。私どもは、この世、
この身にすぐ期待する。なに
か磨けば良くなるかと思つて
いる。自分を磨いてくる方を
定善と言います。自分を磨け
ば私を越えられるかという
そんなことはないですけどね
散善という言葉で言われるの
は、世の中の悪いところを改
めることです。

呼び掛けに帰する

いずれにしても「三遣」と
いう言葉で言いあらわされて
いることは、私どもが促され
るということ。声にした
がうこと。それが聞くとい
うことです。「発遣」の声を聞
く。いま具体的に「三遣」と
いうことでね、「発遣」の内容
を言いあらわしましたけれど
も、諸善を頼む心を棄てて、
称名念仏しなさいという促し
です。それが「三遣」です。

呼び掛けに帰する

聞くと言っても、「三遣」の呼び掛けにしたがう。聞くと言っても、したがうことです。それをあらわしてあるのが、「南無」、「帰命」の心ですよ。「命」に帰する。呼び掛けです。呼び掛けを「命」という言葉であらわしている。命じてくるような呼び掛けですよ。「そうしなさい」と私どもに命じてくる。

「発遣」が命です。「招喚」は私どもを呼び返す。「招喚」の方については、親鸞聖人は「勅命」と言われる。何はさておいて、私どもを呼び返すその「命」に帰する。これが南無の心。聞くとすることは結局、「命」に帰することです。呼び掛けに帰するんです。何か参考に聞いておるわけではない。私どもに絶えず呼び掛けて下さっておる、呼び掛けに帰する。

それが釈迦弥陀の二尊の教えです。「発遣」と「招喚」という釈迦弥陀からの呼び掛けです。だから南無阿弥陀仏の道つていうのは、聞くといいことに極まります。「発遣」の命に聞くといいことですよ。「招喚」の命に帰するということも、聞くといいことですよ。

言うことを聞くといいこと。仏さまの言うことは、親の言うことを聞くといいことと同じですよ。聞くといいこと、ただ何か参考に聞いておるわけではない。命にしたがうことです。命に帰するということとが南無阿弥陀仏です。そういう意味で南無阿弥陀仏の道は、非常に大事な道。そういうことを親鸞聖人は明らかにして下さった。

(次号に続く)

(次号に続く)